

名古屋学院大学 元学長  
(現 経済学部教授)

木船 久雄

同窓会50周年実行委員長

脇田 芳徳



# 同窓会は無償の人的ネットワーク。 お互いに活用し、学び合う機会に。

## 大学と社会をつなぐ 役割を担う同窓会。

**木船名古屋学院大学前学長(以下、木船)**  
私が学長に就任した2011年頃は新卒者の就職活動が大変な時期でしたので、同窓会には「大学と社会をつなぐ役割」を求めています。名古屋学院大学は、他大学に比べて同窓生に経営者が多いというデータがあり、ぜひ協力していただこうとなったのです。当時すでに私の前任の小嶋学長が立ち上げた「エグゼクティブ同友会」という組織があり、同窓生の企業経営者がメンバーとなっていましたので、皆さんに声をかけているんことをお願いしました。

**脇田実行委員長(以下、脇田)** 私もゼミ講義を1コマ依頼され、学生に出前授業をしたことを覚えています。就職や仕事のことより、就職してからどのように生きていくべきかについて話しました。自分が表現する自分と、相手から見える自分は違うこと。相手から見えて素晴らしい人間であれば、仕事も順調に運ぶし、人生も素晴らしいものになるだろうと。どのくらい学生に伝わったかはわかりませんが、自分の経験を学生

の皆さんにお伝えする活動は、とても有意義だと感じました。

**木船** 同窓生は、いろんな分野で活躍されているので、それぞれのお話が社会の窓な感じです。また、課題解決型学習(プロジェクトベースラーニング)では、現実の具体的な会社の課題を同窓生からいただき、学生が解決策を考え、プレゼンし、評価して貰うという授業も行っています。人的ネットワークが強固な同窓会があつてのことです。

## これからはスムーズな 世代継承が必要。

**木船** 名古屋学院大学が社会に役立つ存在であり、その実績をアピールしていかないと、同窓生に卒業したことを誇りに感じてもらえないのではないかと思います。

**脇田** 同窓生に大学の今を見ていただく「ホームカミングデー」なども大学祭に合わせて実施しています。世代を超えて同窓会のイベントに参加するという意識を持っていただけるとうれしいです。

**木船** これからは同窓会のスムーズな世代

継承が必要でしょうね。参加するきっかけさえあれば、同窓会のために何かしたいと思っている人もいるかもしれません。また、

在学生には同窓会の役割と大切さを伝える「同窓会教育」のようなものが必要ではないかと感じています。同窓会は利害関係のない無償の人的ネットワークです。経験豊富な人材が多く、リカレント教育や異業種交流などを通して、お互いに学び合う機会も作れるのではないのでしょうか？

**脇田** 同窓会組織をどう構築していくか、一度、足が遠のいてしまった方にどのように再び注目していただくか、50周年を迎えるにあたり、同窓会としてやるべきことはたくさんあります。50周年を機に良いヒントを見つけて、100年後、200年後の財産になるような50周年にしたいと考えています。

**木船** 大学もこれまで以上に発展するよう努力して参りますので、今後も温かいご支援をお願いします。

**脇田** 毎年、同窓会メンバーは約1350名ずつ増えていきますので、社会と大学の架け橋となるよう、さらに大学との連携を強固にしていきたいですね。



脇田 芳徳(左)、木船 久雄(右)

# 同窓会の 創立当初に 想いを寄せて。

今から50年前、1回生をはじめとする学生の手作りで生まれた名古屋学院大学OB会。  
創立以来、大学の発展を、学生の活躍を見守り、支援し続けてきました。卒業生、初代会長をお迎えして当時の思い出をお聞きました。

ゲスト  
初代同窓会会長

岸 邦治郎

ゲスト  
1回生卒業生

杉野 祐敬

進行  
同窓会50周年実行委員長

脇田 芳徳

インターネットが発達した時代でもなかったので情報を集めようがない。

**岸** 支部ができたのはずっと後のことですかね。

**杉野** 支部ができれば、東京都の人は東京で集まることができるし、発言もしやすく、主体的に活動できます。小さいほど心温まる組織ができると思っています。

**岸** 現在、4万8,000人の同窓生がいますが、一度に集まることは難しいほど大きな組織になりました。

**杉野** 学部ごとなどに細分化されることなく、一つの組織であることの利点をどう活かすかも大切ですね。

## 心にいつも情熱を持って、 自分の好きなことを最優先に。

**脇田** OB会と同窓会を立ち上げた立場として、杉野さんや岸さんにとって同窓会とはどのような存在ですか？

**杉野** いわば後援会だと思っています。同じ大学を卒業した仲間として、大学の発展や学生の活動を見守り、支援する存在ですね。

**岸** 次の世代につなげていかなければならない大切なもの。創立した当初は、同窓会の土台を作る縁の下の力持ちとして、少しでも良い形で、次の世代に譲ることしか考えていませんでした。

**杉野** 同窓会には卒業生とのパイプ役として、これからは会報などを通して情報を届けていただきたいですね。

**岸** 同窓会の会長として大学に顔を出すと、学生や教授とも親しくなることができ、大学との関係が続くことで、いろんな発見や喜びもありました。

**脇田** 手作りではめられたOB会の創立、若々しい名古屋学院大学の様子など、50年前のことが目に浮かぶようです。最後にメッセージなどをいただければ。

**杉野** 大学のことを思い出しているうちに気持ちが若返って(笑)。サミュエル・ウルマンという詩人の「青春の詩」にもあるように「希望ある限り若く失望と共に老い朽ちる」ではありませんが、私も大学生のような気持ちで希望を持って生きていきたい、大学に戻りたいくらいですね。

**岸** 遠慮せず自分の好きなことを追求してください。最近の学生は大人しく、まじめすぎるように感じます。あまり他人のことばかり考えずに、自分の人生ですから、若さを全面に出してほしいですね。

**杉野** 若い方は先輩から可愛がられるもの、そういうつもりで、どんどん前に進んでほしいですね。私たちは応援したいばかりですから。

**脇田** 本日はありがとうございました。

## 時間も無い、予算もない、 何もないスタート。

**脇田実行委員長(以下、脇田)** 同窓会の前身組織は創立した当初どのような組織でしたか？

**杉野1回生卒業生(以下、杉野)** 卒業して2年目くらいに、卒業生組織を作ってほしいと当時の事務局長からお話をいただいて、10人くらいがホテルのロビーに集まったのが最初でしょうか。

**岸初代同窓会会長(以下、岸)** 私たち1回生だけでなく、2回生、3回生にも集まってもらって、1ヶ月に一度くらい、ホテルのロビーや名古屋駅の喫茶店などに集まって話し合いをしていました。

**脇田** どのようなことを話し合っていたのですか？

**杉野** 卒業生をどうしていくかということですね。50年前は、もちろん皆さん若いですから(笑)。時間も無い、予算もない、何もないところからのスタート。ボランティアで集まっていますから、仕事もしながらの会合となるとあまり前を進みませんでした。その後、私は名古屋学院大学後援会に所属することになり、それからは岸さんにお任せして、残念ながらOB会からは離れることになりました。

**岸** これから卒業生が増えていく中で、形だけでも整えなければ、とは思いますが、どうすれば良いかわからず手探りでした。名簿を作ろうとしたのですが、卒業生会費を集める手段もなく、予算もありません。そこで考えたことが、卒業生後援会の予算を取って、予算をいかに使わずに貯めるかということ。資金を貯めて、後輩に託そうと考えていました。良い意味で、あまり活動しませんでしたね(笑)。

## 4万8,000人の同窓生を 有する巨大な組織へ。

**脇田** すでに名古屋中学・高等学校の同窓会組織である「敬愛同窓会」があったと思いますが、参考にされた点などはありますか？

**杉野** 一から私たちの手作りですね。

**岸** 大学の同窓会ができることで、敬愛同窓会と両方の会費をお願いをしなければならず、その点は苦労しました。4回生、5回生と、卒業生が増える度に、それぞれ2人ずつはOB会の役員に入っていたくようにして人数が増え、瀬戸キャンパスの事務局に集まるようになり、大学とも連携が取れるようになりました。事務局に卒業生が就職して、事務的なことを担当してくれるようになって組織としてまとまったように思います。

**杉野** OB会に入って名簿に名前が残るということは、大学を卒業した証ですから大切なことですが、名古屋市だけならまだしも、東京都にも、大阪府にも、全国に卒業生はいますが、今のよう